

日本災害看護学会JSDN / 第43号 2022年6月11日

【事務局】日本災害看護学会事務局（株式会社ガリレオ学会業務情報化センター）

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-24-1-4F TEL.03-5981-9824 FAX.03-5981-9852

http://www.jsdn.gr.jp/ e-mail : g034jsdn-mng@ml.gakkai.ne.jp

追悼 近田敬子先生を偲んで

理事 大野 かおり



近田敬子先生

日本災害看護学会名誉会員の近田敬子先生（鳥取看護大学名誉学長、兵庫県立大学名誉教授）が令和4年4月4日にご逝去されました。

近田先生は阪神・淡路大震災時に被災者の健康と生活を支える活動を行い、その活動を兵庫県方式「まちの保健室」へと展開し、復興住宅で生活を続ける

被災者の大きな支えを築かれました。また「まちの保健室」活動を看護基礎教育に取り入れるとともに、「まちの保健室」を運営するための共同体－ケア提供者側の共同体－の構築にも力を注がれました。

日本災害看護学会では第19回年次大会長を務められました。「ソーシャル・キャピタルの醸成と災害看護」をテーマとする山陰の地でののはじめての開催となりました。鳥取県中部地震（2016）発生1年後の開催となり、災害への「備え」を中心概念においた大会でした。互助的な人間関係が希薄になった近年において、お互いに助け合えるコミュニティのあり方に焦点をあて、専門職者・非専門職者の壁を乗り越えたネットワークの構築および支援活動の継続の重要性を力強く訴えておられました。近田先生の長年の業績を底流に読み解くことができる意義深い年次大会になりました。

このような素晴らしい教育研究業績と多大な社会貢献が認められ、令和3年には春の叙勲で瑞宝中綬章を受章されました。コミュニティとともに歩む近田先生の活動は、これからの看護のかたちにつながるものであると感じます。

近田先生のご生前のご活躍に深く感謝いたします。そしてご功績を偲んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。



新時代に即応した学会運営へ

理事長 酒井 明子

日頃から日本災害看護学会へのご支援を賜りお礼申し上げます。

阪神・淡路大震災（1995）の発生を契機として1998年に日本災害看護学会が設立され2022年には25周年をむかえます。現代は、巨大災害の時代であるとともに悪性感染症の時代と言われています。今後、首都直下地震や南海トラフ地震を含め大規模な地震が相次いで発生するリスクは高くなっております。このような複合災害や連続災害時には、外部からの支援がなくても持ちこたえられるだけのコミュニティ力や地力を育み、平時から様々な個人や団体と連携・交流しながら災害時対応の仕組みを考えていかねばなりません。そのためには、何と云っても今後の課題を見通すことのできるエキスパートの人材育成・若手の人材育成が重要になります。今期は未来に繋がる委員会（災害看護倫理検討委員会（仮）・災害看護ケアの質向上委員会（仮）等）の設置および現行の委員会再編、人材育成および活用を促進すべく新たな取組みを検討しています。詳細は決定次第お伝えします。

最も重要なことは、会員・組織会員のニーズに迅速に対応することです。このためには、常に外向きに積極的に情報発信を行っていく必要があります。災害関連情報や学会および年次大会関連情報をホームページ、ニューズレター、学会誌、そして会員一斉メールにてタイムリーに情報発信していきます。時代の変遷や会員のニーズに応じて、今後も引き続き会員・組織会員の皆様のご支援を頂きながら、一人でも多くの命が助かる社会になることを願い、災害看護の発展に努めていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

第24回年次大会長 ご挨拶

第24回年次大会 大会長 竹崎 久美子

日本災害看護学会第24回年次大会大会長を拝命しております、高知県立大学の竹崎久美子です。今年こそは、皆様と高知でお目にかかれることを祈念しておりました

Series委員会活動!「編集委員会」

編集委員会 委員長 大野 かおり

学会誌は学会の顔であり、社会に対して学会の位置づけや態度を表明する場です。さまざまな知見を公表することで、研究者・実践者にとっては情報収集の手段になるとともに、業績を獲得する場になります。その編集作業を行っているのが編集委員会です。

1999年に発刊した第1巻1号から第23巻3号まで年次大会号を除いて45号分の学会誌を発行しており、学会員から投稿された論文184タイトルを掲載しました。表に示したとおり、掲載論文の数は徐々に増加しています。災害看護に対する関心と認知の高まりが伺えます。これに伴い、掲載論文の質の向上が重要な課題となります。

掲載論文の質向上に向けて、今年度は査読委員就任にあたって「査読委員の選定基準」を設けました。適正かつ迅速に査読して、精練された論文が掲載できるように努めます。

また、本学会の特徴として実践者からの投稿が多いことを踏まえ、サポーターにピアレビューできる体制を整えていきます。

みなさまからの投稿をころよりお待ちしております。

巻	掲載論文数 (投稿論文のみ)
1	2
2	7
3	7
4	7
5	6
6	7
7	7
8	7
9	7
10	5
11	9
12	7
13	4
14	7
15	9
16	10
17	10
18	7
19	8
20	10
21	15
22	15
23	11
合計	184

が、今後も新型コロナウイルス感染症対応の最前線に立たれる皆様に、安心してご参加戴くことを最優先し、WEB開催とさせて頂き戴きます。

演題募集に際しましてはたくさんのご応募、誠に有難うございました。この後は皆様の参加登録をお待ちしております。特別講演には、室崎先生、南先生お二人のレジェンドから、従来の自然災害に加えて感染症の蔓延という複合災害時代を踏まえ、そこから見えてきた新たな課題についてご示唆を戴きます。また教育講演では、新型コロナウイルス感染症について、医療施設対策と国際保健それぞれの視点から、小林寅詔先生（東邦大学）、高山義浩先生（沖縄県立中部病院）にご講演戴きます。気候変動という新たな脅威に関しては江守正多先生（東京大学／国立環境研究所）をお迎えします。

シンポジウムでは、全国で急増した在宅療養者をめぐる自治体・保健活動・訪問看護活動の総括。そして、高知で第24回大会を拝命した最大の理由でもある「南海トラフ巨大地震への備え」について、要配慮者対策、官民総力戦で様々な進む備えについて共有し、今後進むべき方向性を皆様と探れたらと考えています。

自然災害だけでなく、様々な苦難の時代に足を踏み入れた私達ですが、一人でも多くの方が住み続けられるしくみづくりのために、今、改めて準備期の災害看護を皆様と考えて参ります。どうか周囲の方々お誘いあわせの上、大会への参加登録をお願い申し上げます。

第24回年次大会市民公開講座のご案内

社会貢献・広報委員会 委員 伊東 愛・江口 のぞみ

日本災害看護学会第24回年次大会における市民公開講座のテーマは、「すまいの構造とそれぞれの防災－戸建／マンション・木造／鉄筋で備えはどう変わる？建築学からの提案－」です。

このテーマは、第24回年次大会のテーマである「今、あらためて準備期の災害看護を考える 住み続けられるしくみづくりのために」につながるテーマとして企画しました。“住み続けられるしくみ”の前提として、「すまい」の拠点となる居住空間がどのような特性をもつかは非常に重要です。

「すまい」には、様々な形があります。「戸建て」と「マンション」はもとより、戸建てのなかにも木造と鉄筋、マンションのなかにも高層階と低層階があります。これらの「すまい」の形は、災害時にどのように影響するのでしょうか？

本企画では、すまいの構造をふまえた備えについて考える機会をご提供します。座長には、防災研究の第一人者の室崎益輝先生、講師には、防災士であり、マンション学をご専門とする田中綾子先生をお迎えします。市民の皆様はもとより、本学会の会員の皆さまにも一市民として多くのご参加をお待ちしております。本企画は、フリーアクセス方式（無料）で配信されますので、患者様やご家族、知人の皆さまにもぜひご紹介ください。

編集後記

日本災害看護学会創立25周年を迎えた今年度最初のニューズレターは、電子版第1号として、会員の皆様への理事長挨拶とともに、長年にわたり本学会運営にご尽力いただいた近田先生を偲んで、追悼文を掲載させていただきました。

新型コロナウイルス感染症の終息を見ない状況の中で、第24回年次大会もWEB開催となりましたが、参加者の皆様にとって貴重な情報交換の場になることを願っております。

最後に、今期より社会貢献・広報委員会は新たなメンバー（委員長／立垣 祐子、委員／神崎 初美、石橋 信江、伊東 愛、宇治丸 圭子、江口 のぞみ、夏目 恵美子、松清 由美子）でニューズレターを担当させていただくこととなりました。会員の皆様と災害看護の発展に向けて語り会える日が一日でも早く来ることを願いつつ、本学会の動向とともに災害看護に関する様々な情報を発信して参りたいと思っております。（社会貢献・広報委員会 松清 由美子）